

講義名	心理療法論			
担当教員	綱直 優子			
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 2時限	授業形態	講義	
履修開始年次	3年生	単位数	2	備考

主題と概要

心理療法とは、個人の心理的な悩み、症状などを解決するために、セラピスト（心理療法行為を行う人）とクライアント（心理療法を受ける人）の間で、言葉による表現、感情の把握、意識されている体験のやり取りの過程を行っていくものである。ここで行われるやり取りにはセラピストの背景にある学派が反映される。また、同じ学派であっても、そこでやり取りされることには、いろいろな方法（技法）が存在する。心理療法には、さまざまな学派があり、各学派には「人間をどのように捉えていくか」という人間観、心理療法をどのように捉えていくのかという心理法観、そして心理治療を受ける人どのように扱ってゆくのかという技法論がある。この講義では、心理療法とは何か？ということを考えていくことを始めとし、代表的な学派の創始者について紹介していくとともに、その根底にある人間観について解説していく。また、心理療法の対象となる人達の中には、いろいろな病理症状に苦しんでいる人がいる場合も多い。その病理について解説していく。そして、代表的な心理療法の技法について紹介・解説を行っていく。

到達目標

人間の精神構造・精神機能について理解できることができるようになる。どのような精神病理があるかが理解できるようになる。代表的な心理療法について理解できるようになる。ある心理技法を使った治療計画を立てることができるようになる。

提出課題

毎授業何らかの課題を提出してもらおう。課題提出や内容については授業内に説明する。課題が期限内に提出されない場合は、欠席扱いとなる。提出方法は、レスポンスなどによって行う予定ですので、提出期限直前に提出の場合、通信環境が悪く提出が遅れる事態が生じるかもしれません。期限後の提出は受け付けませんので、余裕をもって提出準備をしてください。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

次回以降の授業内で解説を行っていきます。

評価の基準

授業時課題（20％）
2回の中間テスト（あるいはそれに代わる課題）（40％）
定期試験（あるいはそれに代わるレポート）（40％）

と のどれか一つでも欠けた場合は授業を放棄したとみなしますので、ご注意ください。

履修にあたっての注意・助言他

本講義の履修前に臨床心理学の講座を履修することをお勧めします。授業内で、必要な指示を出していきますので、授業内で出た指示は、必ず、記録に残すようにしてください。評価基準にも書いていますが、「2回の中間テスト（あるいはそれに代わる課題）」と「定期試験」のどれか一つでも欠けた場合は、授業を放棄したとみなしますので、必ず、受験、あるいは提出をしてください。授業方針（中間テストや定期試験など）が変更された場合は、状況に応じて、その都度、授業内でお知らせしていきますので、毎授業受講し、情報を確認できるようにしておいてください。

教科書					
.使用しない。					

プリント資料及び参考文献

- ・『フロイト精神分析入門』小此木啓吾・馬場謙一著 有斐閣新書
- ・『ロジャースクライエント中心療法』佐治守夫・飯長壽一郎 有斐閣新書
- ・『カウンセリングとは何か 理論編』池田 久剛著 ナカニシヤ出版
- ・『カウンセリングとは何か 実践編』池田 久剛著 ナカニシヤ出版
- ・『療法ハンドブック』乾 吉佑 他編 創元社

授業計画

- 1心理療法の基礎知識
- 2精神病理への理解 1（精神病理とは何か、神経発達障害など）
- 3精神病理への理解 2（統合失調症、うつ病など）
- 4精神病理への理解 3（不安障害など）
- 5精神病理への理解 4（強迫症など）
- 6心の働き（意識・無意識）
- 7人格論と発達論
- 8心理療法各論 1（精神分析療法）
- 9心理療法各論 2（クライエント中心療法）
- 10心理療法各論 3（行動療法）
- 11心理療法各論 4（行動療法）
- 12心理療法各論 5（行動療法）
- 13心理療法各論 6（認知療法）
- 14心理療法各論 7（遊戯療法、芸術療法、箱庭療法など）
- 15心理療法各論の総括

受講者の理解度・興味などで多少の変更が生じる場合もある。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A～L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：授業内で予告された精神病理名（第1回～第5回）、精神構造（第6回）やフロイトとエリクソンの発達論（第7回）、心理療法技法（第8回～第14回）を調べ、ノートにまとめること（予習時間：2時間）

復習：各自の授業内で説明された事について、更に理解を深めるために、シラバスに記載している参考文献を目を通し、ノートを作成し、次の授業の時に、質問できるようにまとめておくこと。特に第8回から第14回までは心理療法技法を使ったケース理解をしてもらうため、授業内で出された事例について、もう一度まとめておくこと（復習時間2時間）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

達成目標 1、2 を達成することで、ディプロマポリシーの「人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造すること」に貢献することができる。また、達成目標 3 から を達成することで、ディプロマポリシーの「援助を求める人の心理と行動の知識を有し、援助場面で心理学を応用すること」に貢献することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」 病院臨床において、心理療法を行う上で授業で扱う理論や手法を活用している。

備考